

INDEX

- ① 巻頭言
- ② 高齢者施設より
- ③ 児童施設より
- ④ 法人主任研修報告
- ⑤ 第29回法人研究発表会
- ⑥ 法人人事考課実務者研修報告
- ⑦ 表彰受賞者一覧
- ⑧ 広報さん「お宝BOX」より

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257奈良県生駒市元町2-14-8桃李館内 TEL:0743-74-1172/FAX:0743-74-1911

巻頭言

「スタディツアー スリランカへ」

理事長 辻村 泰範

全国社会福祉協議会国際社会福祉基金委員会主催のスタディツアーが行われた。

1984年に始まったアジア児童福祉従事者長期研修に参加した研修生の母国でのその後の活躍状況や課題を探るために委員会が参加者を募集して毎年訪問国を選んで実施されているが、スリランカは初めての訪問となった。

26名の視察研修団が今年の1月13日から17日にかけてコロナポを拠点にしてスリランカの社会福祉事情を視察研修した。今回のスタディツアーには、法人から辻村万里子いこま乳児院長（国際基金委員）、辻村泰聡極楽坊あすかこども園園長も参加した。

スリランカ民主主義共和国はインドの南端につながるよう位置する島国である。古くからの仏教国で南方上座部と呼ばれるいわゆる小乗仏教に属しているため、大変戒律の厳しい仏教国である。人口の70%が仏教徒であると言われている。

スリランカからやってきた、故シロガマ・ウイマラ僧正のことを覚えている方も多く

おられると思うが、私たちは彼を通じて永くスリランカの子供達を支援してきた。

ウイマラさんが日本にやってきてまもない頃、今も記憶に鮮やかなのは、スリランカの地政学的な位置の重要さについての議論だ。当時最貧国の一つに挙げられていた北海道ぐらいの小さな島国だが、インド洋に突き出たその位置はいわゆるシーレーンと呼ばれる海上輸送路の重要ポイントにある。スリランカが仏教国であると同時に日本にとって中東との航路の要石のような存在だという先見性に満ちた議論であった。

(※2ページにつづく)



ウイマラ師像

十数年前になるだろうか、中国がスリランカの重要な港湾を100年という長期の借款で軍港化したという出来事があった。その金で高速道路などのインフラ整備を行ったのだが、国を売ったと国民の非難を受け当時の大統領は失脚した。中国はこうして海上シルクロードの拠点を手中に収めたのである。中国は硬軟取り混ぜて海外進出を企図してきた歴史を今も持っている。

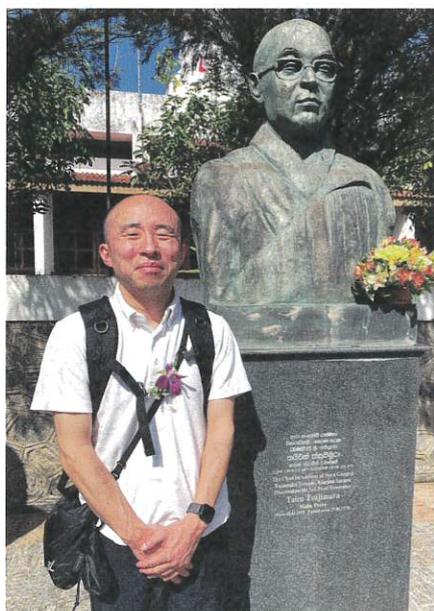
私たちのスリランカ支援は純粹に福祉的発想と仏教国としての共通な価値観に基づくものだ。

さて、スタディツアーの一行はネセック(NESSEC)財団の運営委員長を務めるセートウンガさんがスリランカ側の代表となつて国内事情や状況の説明を行なつたとのことである。

私たちはウイマラさんの受け入れから始まり、少年の家建設、心の里親制度、ネセック財団の創設と長い間関わってきた上に、研修生もたくさん受け入れてきた。今回も彼らが中心になつて一行を案内し、



ネセック財団本堂前



泰園師と泰聡園長

施設の活動を紹介してくれたそうだ。当然話の端々に我が法人の名前や万里子院長の名前が登場する。それまでスリランカと我々のつながりをご存知ない人たちにとっては、にわかに我が法人や万里子院長や故泰園僧正の名前や業績が紹介されるのだから「おー！」となる。

それまで後ろに控えていた院長や、園長が前に押し出されて戸惑ったそうだが、研修生が母国で活躍している様を皆さんに高く評価されたことを共に喜びあいたい。

帰国報告を聞きながら、改めて民間外交ともいべき相互理解と友好親善の重要性を意識したことであった。

児童施設より

4p

愛染寮

児童発達支援いっぼ

6p

平城児童センター

児童発達支援センター仔鹿園

8p

こども支援センターあすなろ

3p

いこま乳児院

5p

いこま乳児保育園

あすかの保育園

7p

奈良県発達障害者支援センターでいあー

極楽坊あすかこども園

9p

いこまこども園

第三者評価を受審して

いこま乳児院

主任 廣津 小百合

3年に1度、受審を義務付けられている第三者評価。令和7年度にやってくるとわかっていた私たちは、「よし、頑張るぞ!」と意気込み準備をしていました。

ところが、突然、評価機関が変更になるとの知らせを受けました。新たな評価機関での受審に緊張が走りましたが、躊躇はしてはいられません。私たちの姿を十分に見て頂けるように前向きに取り組むことにしました。

まず、施設運営に関する45項目・養育支援に関する22項目の合計67項目の評価項目について、自己評価を行います。今までは、リーダーたちが分担し記入をしていましたが、職員全員に配り、施設全体で取り組むことにしました。各々が自分で考え、記入したものをリーダーがまとめ、クラスミーティングで方向性の確認を行いました。経験のない職員たちは頭を抱えていましたが、そのような姿こそが、意味のある事だと少し嬉しく思いました。職員たちが「こんな事知らなかった」、「気にしていなかった」等とミーティングで話してくれたので、伝え方や掲示の仕方の見直しにもなり、共通認識するための手立てを考えることもできました。

そして、受審当日。評価機関の方が、施設見学・ヒアリング・書類を確認され、評価が決まります。中でもヒアリングは、丁寧に時間を使い、各専門職が評価機関の方と話をしました。ヒアリングの

時間が長いので、職員への負担が大きいのではと懸念されましたが、どの職員も疲れた様子を見せず「大丈夫でした」と前向きでした。滞りなくすべての過程が終了し、11月に評価決定通知を頂きました。

結果は、『大変良い評価』を頂くことができました。現在取り組んでいる活動を継続していくために、職員一人ひとりが同じ方向を向きながら進んでいける体制を整えていきたいと考えています。あわせて、これからの乳児院に求められる役割やあり方について理解を深め、支援の質をさらに高められるよう努めてまいります。

社会的養護関係施設福祉サービス 第三者評価受審証

法人名 社会福祉法人 宝山寺福祉事業団
事業所名 いこま乳児院
評価機関名 特定非営利活動法人 ふくてっく

貴事業所は、当機関による社会的養護関係施設福祉サービス第三者評価を受審しその結果を公表していることを証します。

記
1. サービス種別 乳児院
2. 評価決定年月日 令和7年11月12日(令和7年度)
3. 評価の公表 全国社会福祉協議会HP、ワムネット
および当法人HP

令和7年11月12日

特定非営利活動法人 ふくてっく



創立80周年に向けて

愛染寮

主任児童指導員 菅尾 明史

年末には恒例の愛染寮クリスマス会でミyak ミyakサンタ?が登場し、大人も子どもも気合の入ったパフォーマンスを見せ大変盛りあがりました。年が明けて1月2日には成川会長をはじめたくさんの卒寮生たちが帰ってきてあすなろ会すき焼きパーティーが行われました。家族で来てくれる方、社会人になってまだ数年の方、年齢も愛染寮に居た年数も様々です。まさしく「楽しき我が家愛染寮」といったところです。

今年愛染寮は創立80周年を迎えます。4月になり年度が変われば「沖縄へ行こう!海への里帰り」、「華道習作展」、「記念式典」と控えています。

八十周年を祝うべく制作中のスペシャルムービーもありますので、どうぞご期待ください!



八十周年に暴れまわる!?これが噂のアイゼンジャー!!

清々しい気持ちで

児童発達支援いっぽ

管理者 長野 智子

年初めの休日。私事ですが墓参りに出かけました。1年近く行けなかった間に草がぼうぼうに生えた状態を見て心が痛み、30分以上かけて綺麗にしました。綺麗になった墓前で静かに手を合わせた時、自然と「清々しい心」になっている自分に気づきました。「清々しい」の意味の中には、「心配事が解決した・物事をやり遂げた後の解放感・明るさ・さっぱりした」等があるようです。さて、私達の仕事を振り返った時、このような気持ちになる時がいったい幾つあるだろうか?とってしまいます。特に対人援助の仕事にはもちろん、これでおしまいという終わりがなく、手応えがある時ない時いろいろで、体も心もきついとを感じる事も多いのかもしれない。でも、いっぽは今年も、通って下さる子どもや家族の方に寄り添い、困難な事やしんどいなどと思う瞬間があっても、解決し、やり遂げられる

ように、職員みんなで力を合わせていきたいと思っています。その先の「清々しさ」が少しでもいっぽに溢れるようにと願いながら。



福笑いに挑戦! 変なお顔のドキンちゃん♡

子どもと私の心の距離

私は今年度異動してきた先生と2歳児の担任をしています。持ち上がりではない担任二人と子どもと、お互い手探りの状態でスタートしました。普段の生活ではそこまで支障はなかったものの、午睡の時間は大変でした。子どもがなかなか寝てくれない、トントンするのを嫌がられる、心が折れそうになりました。どうすれば子どもとの距離が縮まるのかとても悩みましたが、やっぱりたくさん遊ぶ事だと思い、一緒に楽しむことをモットーに日々過ごしました。そうすると、段々と子ども達が心を開いてくれて、その内「せんせい」と呼んで

いこま乳児保育園

保育士 大高 優

くれるようになり、ついに「おおたかせんせい」と言ってくれるようになりました。そこまでに至るのに3ヶ月、春から夏へと季節も移り変わる頃でした。一緒に遊んでくれる存在、自分の話を聞いてくれる存在、困った時に助けてくれる存在に、少しでも近づけたと思うと嬉しく感じます。私が休みの時は「おおたかせんせいまだ?」「きょうおやすみなん?」と聞いてくれる子どももいると耳にし、もうすぐ卒園する子ども達と、とにかく楽しんで、思い出作りをしたいと心から思っています。

子どもの食べる力を応援したい

あすかの保育園の栄養士として2年目になりました。毎日の給食を通して子どもたちの成長を間近に感じられることに大きなやりがいを感じています。

少食や偏食があったり、食事に時間がかかったりしていたお子さんが、成長とともに決まった量をしっかり食べ、おかわりをする姿を見せてくれることは、本当にうれしい瞬間です。

子どもたちの様子を見てみると、「これなら食べてみようかな」という前向きな気持ちが芽生える瞬間に出会うことがあります。食材の切り方や調理方法を工夫したり、ほかの食材と組み合わせたり、保育士さんの丁寧な声掛けや、お友達がおいしそうに食べている姿が刺激になったりと、子どもたちが一歩踏み出せるきっかけは本当にさまざまです。少しずつ食べられるようになったという小さな成功体験が積み重なり、やがて自信へとつながっていくのだと日々感じています。

今年度参加した研修でもこうした日々の積み重ねこそが子どもたちの食べる力を育てるという講演があり、私自身の経験と重なる内容でした。本園でも、菜園活動やルッキング(調理の最終工程を子どもたちの前で実施し見てもらう活動)を行って

あすかの保育園

栄養士 谷口 和江

います。これらの活動に関わる中で、子どもたちがどのように食と向き合っているのかを間近で見る機会が増えました。その様子を見てみると、保育士さんと子どもたちのやり取りには信頼関係があり、その安心感が「食べてみよう」という意欲につながっていることを強く感じました。

今年は私自身も栄養士として子どもたちと身近に関わり、一人ひとりの気持ちに寄り添える存在でありたいと思っています。給食の時間に声をかけたり、食育活動を通して「この先生になら話してみよう」「食べてみようかな」と思ってもらえるような関係づくりを目指していきたいです。



いっぱい食べてね

体験活動と自然とのふれあい

センターでは野外での様々な自然体験活動や遊びを中心に活動を行っていますが、今年度は気候変動の影響を大きく受け改めて自然とのふれあいが大事であると思いました。

野外活動では早い時期から高温が続き熱中症対策が必要となり例年ですとほとんど行わない室内での活動を増やすことにしました。また小学生の活動日の日曜日に降雨が多く予定していた活動をそのまま行うか変更するかの判断も度々必要になりましたが新しい活動を考える機会にもなりました。

保護者の方の希望の多い体験活動として行っている稲作も大きな影響を受けました。稲の生育期間中は豊富な水が必要となります。田植えまでは順調でしたがその後記録的な少雨が続き、例年使用しているため池は空っぽとなり注水できず田のひび割れが目立ち始めました。このままでは収穫を断念、子どもたちが楽しみにしている稲刈りができないことになるのでやむを得ず一時的に水道水を使用することにしました。その後は天候

平城児童センター

センター長 徂徠 おさむ

にも恵まれ10月には稲刈り、12月には新米を使った収穫祭を行いそれぞれ子どもたちの生き生きとした活動を見ることができました。今後とも気象状況に十分注意し、自然との調和を大事にしながら体験活動を行っていきたく考えています。



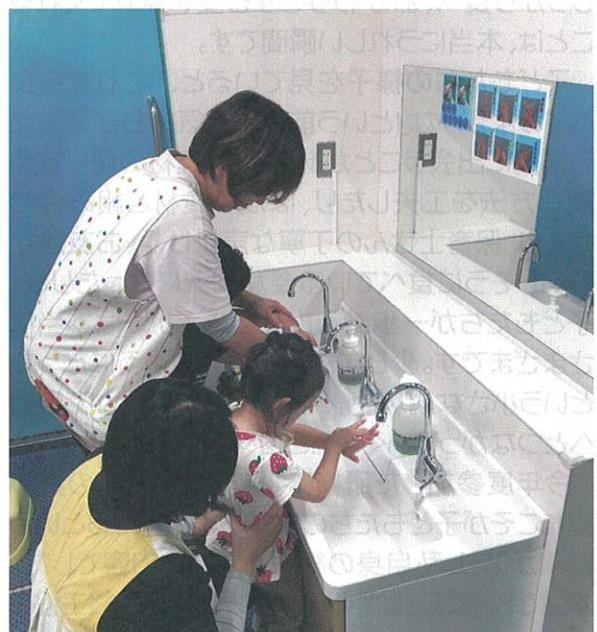
楽しい手洗い

昨年の夏に園児用手洗い場が新しくなりました！以前は旧式のものでしたが、ようやく新式の手洗い場に。多くの家庭で使用しているタイプの蛇口になった事に加え、小ぶりで子ども達にとっても使いやすくなり大好評だったのですが、子ども達が使いやすいということは…そうです…バシャバシャ水遊びを始める子どもを慌てて止める先生達という光景も増えるのです。そんなハプニングも楽しみながら手洗いを行っています。

今年度は「楽しい手洗い」をテーマに感染対策の一つとして皆で手洗い強化の取り組みを行ってきました。「手洗いのうた」を子ども達と歌いながら歌に合わせてゴシゴシきれいに手を洗います。お蔭さまで感染症にも負けずに子ども達も職員もみんな元気いっぱいです！これからも「楽しい手洗い」を続けていきたいと思ひます。

児童発達支援センター 仔鹿園

保育士 永田 佳子



社会福祉士実習指導者講習会を受けて

奈良県発達障害者支援センターでいあー

相談員 菅原 史登

いあーではこれまで臨床心理・公認心理士実習の受け入れを行ってきました。来年度以降は社会福祉士実習の受け入れも予定しています。その準備として12月に実習指導者の講習会がありました。参加にあたって思い返せば、私が大学生の頃に社会福祉士の実習を受けてから数年が経っています。自分の場合は入所施設で食事介助などを通して利用者さんに関わった実習だったこともあり、「相談機関のいあーでどんな実習プログラムを作ったらいいか」と若干不安を抱えながらの参加となりました。

2日間の研修では座学で基本的な実習計画の作り方や、グループワーク演習で指導の関わり方を学びました。実習計画に盛り込む基準を知り、他の施設でどのようにしているか話を聞くことで

参加前に感じていた不安は減りました。今後はいあーの業務に合わせて提供できるプログラムを具体的に考えていくこととなります。実習生さんにとって目標とその達成がわかりやすいプログラムにしたいと思っています。またせっかくの機会ですので、できれば面談や電話相談などの直接支援に少しでも関わってもらう内容にできたらと思います。実習生さんにとっては発達障害のアセスメントや利用者さんとの関わり方の工夫を知る機会にできたらと思いますし、私たちにとっては外部の視点で普段の支援を振り返る機会にもなればと期待しています。プログラム作りについてはまだ悩むところもありますが、追加の研修にも参加しつつ施設内で協力しながら内容を詰めていきたいです。

令和7年度を振り返って

今年度は3歳児クラスの担任をさせていただくことになりました。進級23名、進入6名、計29名でスタートした4月の保育室は賑やかで、気が付けば時間が過ぎ1日が終わっていったことを覚えています。先輩保育教諭からは「まずは生活するだけでいいから」と言う助言をいただきましたが、そのことの意味がよく分かった気がします。

そんな今年度は食育活動に積極的に取り組みました。エンドウ豆やトウモロコシ、ピーマンやパプリカ、さつま芋やキノコなどの季節ごとの食材に触れて親しむことで、楽しみながら子ども達の食材への興味や関心につなげていくことができたと思います。保護者からも「野菜が苦手なのにスーパーで自分から野菜を手に取り、食べたいと言いました。」というような言葉を聞くことができ、活動の手ごたえを実感できました。11月の作品展では「たべるのだいすき」というテーマで食育で触れた食材を作品にして展示しました。自分達

極楽坊あすかこども園

保育教諭 榎原 翔

で作った食材を見て「おいしー」と言って食べる素振りをしながら嬉しそうにしている子ども達を見て、私も嬉しくなりました。

生活を送ることも大変なスタートでしたが、これからも子ども達に色々な経験をさせてあげることで「楽しい」「嬉しい」を共有しながら一緒に過ごしていきたいと思っています。



保育所等訪問支援はじめました

昨年度末からこども支援センターあすなろでスタートした保育所等訪問支援事業ですが、今年度は私が担当することとなりました。

保育所等訪問支援とは、地域の保育所・幼稚園・こども園・小・中・高等学校・特別支援学校・乳児院・児童養護施設・放課後児童クラブ(以下保育所等)など、こどもが集団生活を営む施設を訪問し、集団生活への適応の為に専門的な支援を行うものです。

保護者の就労や家庭の状況など様々な理由から保育所等で生活する中、適切な支援を受けられずに困っているこども・心配している保護者・不安なまま受け入れる職員と、それぞれをサポートする役割を訪問支援員は担います。

実際に訪問支援を行い感じていることは、こどもはマイペースでのびのび過ごしていて時々、ワカラナイ、イヤダナという気持ちを上手く表現できないでいることの不安。

保護者は我が子のことをわかってほしい、友だちや先生とどのように関わっているのか知りたい、周りに迷惑かけてないかななどの不安。

職員は集団の中で困っているように見えるこの子に寄り添いたいけれども余裕がない、この支援が適切かどうかわからないという不安。

みんな不安なんだということです。

私の役割は、その場で実際にこどもに「いいね」「がんばってるね」「ここでもうちょっとこうしたらもっとうまくできるかも」と伝えること。保護者に「〇〇ちゃんこんな風に友だちと過ごしていましたよ」「こんなことできましたよ」「先生がこんな場面でサポートしてくれていましたよ」と伝えること。職員には「先生の声掛けで理解できていましたね」「こんな場面で友だちに助けてもらっていましたね」「笑顔が増えてきましたね」と伝えること。もちろん

こども支援センターあすなろ

主任保育士 佐伯 佐知

マカトンサインや視覚支援も使った専門的な支援方法も提案しますが、基本的にはみんなが頑張っていることやみんながこどもの為に同じ思いでいることを「伝える」ことが一番大切なのではないかと思います。

コミュニケーションって難しいとも実感しています。伝えたつもりだったことが自分の理解とは違う伝わり方をしたり、お互いの思いは同じなのに表現の仕方であまり違ってしまうと、もどかしさも感じます。

保育所等訪問支援での新しい出会いに感謝しながら、微力ではありますが、みんなの不安が安心に変わっていくお手伝いができればと思っております。

スタッフが訪問し、お子様の集団生活を支援します

保育所等訪問支援

こども支援センターあすなろ

おだにちと
なかなか
あそべなけ!

行事への
参加が
難しい!

活動に
集中できず
参加が難しい!

保育所等訪問支援とは、お子様が集団生活で困り感を抱えているご家庭や保育園・幼稚園・こども園・小学校・中学校・特別支援学校・乳児院・児童養護施設などを訪問(月2回程度)し、お子様と直接的に関わったり、環境や関わり方の工夫を保育園等の先生方と一緒に考えていく支援です。

ご利用の流れ

当センターへの相談 → 相談支援事業所または市町村に申請 → 支給決定 受給者証の交付 → 個別支援計画の作成 → 契約

お気軽にコチラへお問い合わせください

TEL 0743-74-2050
mail asunaroem5kcn.ne.jp
ホームページ <https://kodomo-asunaro.com>

地域で
子どもたちが
自分らしく
輝くために

こども支援センターあすなろ 担当 佐伯 廣岡



自然保育を通して

このたび本園は、「奈良っ子はぐくみ自然保育」の認証園となりました。「奈良っ子はぐくみ自然保育認証制度」とは、一定の基準を満たした「自然保育」に取り組んでいる園を認証し、奈良っ子の豊かな体験に繋がる自然保育の普及を促進する制度です。

本園は、駅近くでありながらも山や川などの豊かな自然環境に恵まれています。園外だけでなく、園庭においても、イチヨウ、サクラソボ、梅、柿、ザクロといった、四季折々の実を結ぶ木々が並んでいたり、畑では、夏野菜やさつまいもの栽培をしたりしています。この環境を活用し、子どもたちは、ただ眺めるだけでなく、大切に育てたり、収穫をしたりしてきました。また、五感を通じた遊びの中にもこれらを取り入れてきました。自分たちの手で触れ、味わい、季節を感じる経験は、子どもたちの好奇心と思いやりの心を大きく育てていくと感じています。

今後も、身近な生き物や草花とのかかわりを大切にし、「命の尊さ」や「自然を愛する心」を育む保育をより一層深めていきたいと思っています。

また、本園は、令和9年春に奈良県で開催される「第77回全国植樹祭」に向けた「苗木のスクールステイ」に参加しています。植樹行事等で使用される苗木を環境教育の一環として子どもたちが育て、苗木の成長を通じて森林や身近なみどりに関心を高める取組です。ドングリの種まき当日は、

いこまこども園

主幹保育教諭 辰己 章子

森林インストラクターの方から、植樹祭や森林の働きのお話をいただいた後、「コナラ・アラカシ・クヌギ」のドングリを植えつけしました。ドングリによって葉や形、大きさの違いを見せてもらうと、子どもたちは興味津々に話を聞いていました。「自分たちが育てた木が、未来の森になる」という体験を通して、環境を大切にする気持ちを育てていければと考えています。2月には、「苗木のスクールステイ(冬季開始分)」にも参加する予定です。植樹祭まで子どもたちと一緒に大切に育てていきたいと思っています。

このように、本年度は「自然」を通して行事や保育を考えることができた1年でした。来年度も自然保育を通して、子どもの「学ぶ力」「生きる力」の土台である非認知能力や健やかな身体の育みへと繋げていきたいと思っています。



和紙と吉野杉でできた認定証



ぼくたち、わたしたちがそだてています!

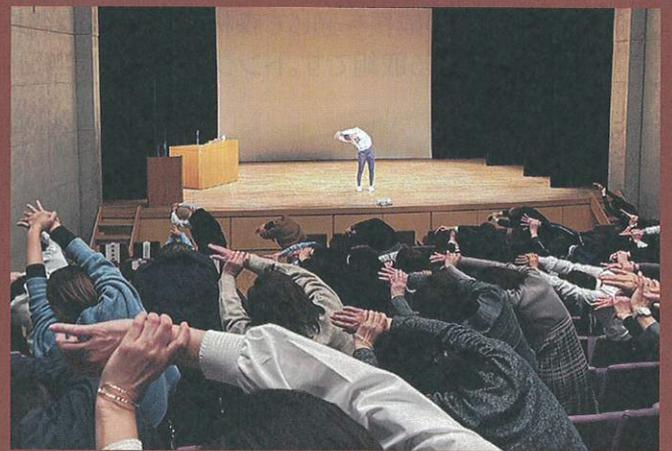
『心躍る生き方♪
～心身の健康とコミュニティづくり～』



第二部の講演会では、一般社団法人ラジーン代表理事の上羽悠雅様に『心躍る生き方♪～心身の健康とコミュニティづくり～』と題して、講演をしていただきました。

上羽様は、スポーツインストラクターでもあり、昨年開催された大阪関西万博で、世界16,000人を繋ぐラジオ体操プロジェクトを実施された方です。

今回の講演では、ラジオ体操や運動を通じたの仲間づくり、ラジオ体操や運動の良さを教えていただき、体をほぐす運動や正しいラジオ体操の動きを教えてもらいながら、実際に身体を動かし、寒い日でしたが身体がポカポカする1時間でした。



当日は、寒く時折雪が舞う日となりましたが、多くの方にご来場いただき、ありがとうございました。



発表3 梅寿荘

働きたいと思う
魅力ある職場を目指して
～現場発信で
働きやすい環境を整える～

発表3は梅寿荘でした。介護施設は人材不足が大きな課題になっている現状、梅寿荘も同様です。

今回の研究では、雇用形態関係なく、全職種にアンケートを実施。アンケートを通じ、梅寿荘における働きやすさの主要な課題『限られた人員と時間の中で感じる忙しさ』『コミュニケーション・情報共有の不足』であることを特定し、この課題に対して、夕礼の導入や各部署の業務内容記録表の作成といった具体的なアクションプランを作成。今後は、継続的な改善（PDCA）を実施していく内容でした。



講評

講評は、テンダーヒル御所の山本忠行施設長にしていただき、各施設の発表内容に鼓舞激励をいただき、講評いただいた内容は、今後の活動につなげ、より良いケアに反映させていきたいと心に誓いました。



第29回 法人研究発表会

テーマ 「今日の気づきが、明日の力に」
～ ケアと職場のこれからを考える ～

日時：2026年1月25日（日曜日）

場所：生駒市南コミュニティーセンターせせらぎ

今回は、特別養護老人ホーム3施設の研究発表と12のポスター発表がありました。

発表1 あくなみ苑

人との関わりを通して
自分らしさを取り戻す
～ 病気からの回復過程 ～

発表1のあくなみ苑は、視床下部梗塞で入院後に施設に戻られた利用者の事例を通じて、病気からの回復を促進するために、施設・職員としてどのような対応が必要であるかについて考察した発表でした。

「生活混乱期」における適切なりハビリの重要性に着目し、利用者の妹様と同室の「二人一組の介護」の実践を、姉妹間の信頼関係や性格特性を活かし支援展開しました。利用者一人ひとりの生活歴、家族、地域とのつながりなど「縁（えにし）」を最大限に活用し、利用者へアプローチしたことは研究を通じた学びとなり、今後いち早く病気から回復してもらうために職員ができることは何かという課題に対して、事例を通し知見を得ることができたという内容でした。

発表2 延寿

個別排泄支援の取り組み
～ 快適で心地よい生活を目指す ～

発表2の延寿では、利用者に対して多面的に個別のアプローチを強化するために5つの委員会を立ち上げています。その委員会の一つである排泄委員会からの発表でした。排泄で使用する一つのアイテムの使用量が異常に多いと発注先から指摘されたことから、この研究が始まりました。なぜそのアイテムの使用量が多いのかの原因究明から始まり、発注先の協力を得ながら、高齢者の排泄機能とオムツやパッド装着の正しい位置を教わり、施設内研修を開催し、ご利用者一人ひとりの使用パッドや排泄介助を行うタイミング見直しの実施。そこから、ご利用者一人ひとりに応じた排泄アイテム・排泄介助を提供することで、衣類までの失禁を防ぎ不快感軽減や清潔保持につながり、職員の排泄介助の負担軽減にもつながった。そして、パッドの使用枚数の削減につながった内容でした。

ポスターセッション プレビュー

今回初めて人気投票を実施
第1位は?!



各施設のポスター発表では、今回初めて人気投票を実施しました。

- 1位はこども支援センターあすなる
 - 2位はあすかの保育園
 - 3位はあくなみ苑（デイ）
- でした。

各ポスターの内容は法人ホームページで見ていただくことも可能ですので、見ていただければ幸いです。



ポスタープレビュー(1位)・あすなる

高齢者施設より

12p

■ 生駒市梅寿荘地域包括支援センター

13p

■ 梅寿荘居宅介護支援センター

■ 特別養護老人ホーム梅寿荘

14p

■ デイセンター憩の家

■ 特別養護老人ホームあくなみ苑

15p

■ はあとぼーと梅寿荘

■ 梅寿荘デイセンター

16p

■ ケアハウス延寿

17p

■ 梅寿荘デイセンター寿楽

研修での学びを業務に

2026年、新しい年になっても寒い日が続いております。

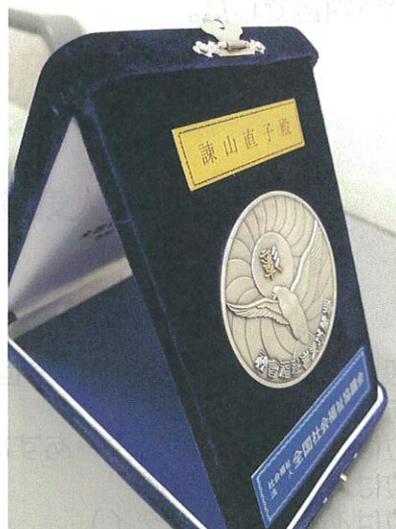
昨年3月、市役所での研修が終わり、2年ぶりに地域包括支援センターに戻りました。周りのサポートを受けながら、忘れかけていた業務を何とかこなす日々が続き、毎年の事ながらバタバタと一年が過ぎたように感じます。

その中で、法人の主任研修会に参加させていただき、人権についてや、職場での心理的安全性やコミュニケーションの技法について学びなおす機会となりました。普段の業務を離れ、講師の先生の話聞きながら、客観的に職場の雰囲気や自身の言動を見直す事ができたと思います。コーチングの講義では、事実が異なって伝わってしまう原因は、人にはそれぞれの価値観や経験があり、それを基に固有の解釈やとらえ方をするためであると再認識しました。日々の業務でも、習った技法を活用し、話しやすい雰囲気づくりに努めていきたいと思っております。研修初日に体験した『元興寺での座禅』という人生初の経験による足の痺れは、普段の痺れとは違って清々しい痺れに感じました。

生駒市梅寿荘地域包括支援センター

主任介護支援専門員 諫山 直子

11月に浅草公会堂で開催された全国社会福祉大会で、全国社会福祉協議会会長表彰を受賞させていただきました。私が高齢者福祉に関わる仕事を続けられているのは、周りの方々のご指導やサポートがあつての事と感謝しております。今後も感謝の気持ちを忘れずに業務に邁進していく所存です。今後ともよろしくお願いたします。



全国社会福祉協議会会長表彰記念

認定調査員の研修を受けて

私たちの仕事の一つに認定調査があります。認定調査とは、対象者の要介護度を判定するために、市区町村の認定調査員が実施する聞き取り調査の事です。

調査員が自宅などを訪問し、身体機能や生活状況、認知機能、精神行動障害、社会生活への適応など、80項目にわたって調査します。

介護サービスを利用するためには、介護の必要性の有無や、介護の手間がどの程度なのかの介護認定を市町村から受けなければならないからです。訪問による調査後はコンピューターでの一次判定、介護認定審査会の二次判定によって介護度が決まります。認定調査は調査対象者の要介護度の

梅寿荘居宅介護支援センター

介護支援専門員 林田 左知子

決定に大きく影響を及ぼすため、公平、公正さが求められます。

そのため、認定調査を行うには指定の研修を受ける必要があります。昨年末に私たちはその研修を受けました。これまで多くの認定調査を経験しましたが、この研修を受け、一つ一つの調査項目にも、今まで以上に慎重に聞き取りを行い、判断していかなければならない事を再確認しました。自分の家族が調査を受けるとしたら…語られる言葉を正確に聞き取り、ひとつひとつ丁寧に確認してほしいと思うはず。認定調査という仕事を通してその瞬間の出会いを大切にしていきたいと思えます。

新しい年度に向けて

梅寿荘では、「地域で高齢者福祉を必要とする皆様と、福祉の仕事に志す人材双方から選ばれる、魅力的な施設」を目指して、様々な取り組みを進めています。この度、法人研究発表にて働きやすい職場づくりをテーマに研究に取り組んだ結果、「良質なコミュニケーション」の必要性を再認識することになりました。

福祉の仕事の中で必要不可欠な信頼関係醸成のためには、対ご利用者やご家族はもちろんのこと、職員間においても「良質なコミュニケーション」が大切な要素になります。私たちは、年度末を迎えたこの時期に、全職員を対象に、ご利用者の満足度を高め、職場の円滑な人間関係作りの土台にもなる接遇マナーを身につけるために、施設内研修を行います。人に好感を与え、信頼を伝える

特別養護老人ホーム梅寿荘

主任介護支援専門員 堀本 卓史

接遇を学び、サービスの質向上を目指します。ポイントは、「あなたのことを大切に思っていますよ」ということを態度や言葉で丁寧に伝えつつ、コミュニケーションをとるということです。私たちの仕事には、「人を大切にする」という特性があります。私たちも人間ですから、人との関わりの中で傷ついたり、憤りを覚えたりすることは自然なことなのかもしれません。そんな中でも、私たちは職業として「人を大切にする」仕事を選んだことを、もう一度心に刻み、そのことを意識するだけでなく、行動で示していきたいと考えます。対ご利用者やご家族はもちろん、共に働く職員に対しても実践し、やりがいを持って安心して働ける職場づくりを推進していきます。

今年度の振り返りと今後の課題

一年の経過がすごく早く感じています、だからこそ、利用していただいているご利用者やご家族、その他の関係の方々に感謝の気持ちを大切にしています。そのために私たち職員が今何が出来るのだろうかと自問自答している今日この頃です。

家族交流会では、ご家族の日々の生活や笑顔、ご利用者の支え、少人数であっても継続することに意味があると思っております。今年2月にもお餅つきの交流会の予定をしています。そこには現在利用されているご家族とともに、すでに利用が終了されたご家族も参加されます。昔働いていた

デイセンター憩の家

生活相談員 友國 和之

スタッフとの交流もあります。また、地域支援室の職員さんの演出もあり、ちょっとした同窓会の様相で楽しみにしている行事の一つとなっています。

今後は、交流会以外にも、スタッフの意識向上をご利用者・ご家族に反映できるように、月毎の会議でテーマを設け研修会を行います。当たり前のことですが、研修内容と現場でご利用者に対しての環境や心の動きとのすり合わせは大切なことと考えています。小さなデイサービスではありますが、暖かい目で見守っていただきますようによりしくお願い申し上げます。

介護という仕事

近年AI(人工知能)の発達で失われる雇用が多くなるという話をよく耳にします。アメリカのある学者によると、現在行われている仕事の47%が失われるとの試算まであります。身近なところでも、スーパーのレジは無人化され、カスタマーサポートはチャットボットが主流となり、製造業では工場の大部分がロボット化されています。そして、今後は車の運転も自動運転化され、車だけでなく電車・飛行機などの運転手も必要なくなる時代も遠くありません。

さて、私たちが行なっている介護の仕事はどうでしょうか？記録などはAIの活用で、もっとルーティン化できると考えられ、見守りセンサーや清掃ロボットなども使えらると思われています。ただ、介護の仕事において大切なところはそこではありません。

私自身、この仕事に就くまでは、正直『誰でも出来る仕事』だと考えていました。しかし、この仕事への理解が進めば進むほど、専門職としての能力が必要で、ご利用者やご家族と会話をする為の、コミュニケーション能力、そして、相手の気持ちを汲み取る力、体調の変化などに対し気づける力

特別養護老人ホームあくなみ苑

介護主任 松本 直大

などが必要不可欠な能力です。その力は各個人が生活の中で学び、培ってきた部分が大きく、すぐに身に付ける事は困難だと考えています。そこは、AIの方が得意な部分？いや、AIには決して理解できない部分ではないでしょうか。ご利用者の表情、声のトーンなどから感じ取れる『気づき』などは、AIにはできないはずです。

ところで、私の本年度の目標ですが、ここ数年入職した職員に対して『この仕事をしていて良かった』とわかりやすく実感できる経験を積ませることを、人手不足で日々目の前の業務に追われる中であって、実現できていません。今年度は、職員にご利用者の生活歴などに想いをはせ、傾聴し、あくなみ苑での生活を『自分らしく生きよう』と思えるような計画を立ててもらい、実行する。どんな小さな事でも、ご利用者に興味を持ち考える。その事が、よりよい関係性を築き、職員にもこの仕事の本質に気づききっかけになると考えます。その成功体験が、職員一人ひとりが『やりがい』を持ち、心にゆとりを持って働ける職場環境づくりに、本年度は積極的に取り組みたいと思います。

1年を振り返って

令和7年度は反省することの多い1年でした。訪問介護の現場では、日々いろいろなことが起こり、ヒヤリハットの事例が報告されます。この事例を職員ミーティングで共有し、大きな事故につながらないようにしています。

年明け1月の職員ミーティングでは、すべての職員に対して1年分の報告事例を事例ごとに検証し、一人一人が自分だったらどうするかを考えてみました。例えば事務所からのヘルパーに申し送りを伝達する際に、情報の受け手であるヘルパーと送り手のサービス提供責任者との間で思い込みや、

はあとぼーと梅寿荘

主任サービス提供責任者 金田 智子

早合点により情報内容に齟齬が生じないように気をつけなければなりません。利用者意向は もちろん尊重しながら、お互いに確認しあうことが大切であると再認識しました。

ヘルパーの仕事は、在宅のご利用者に寄り添いながらすすめていきます。家族やケアマネージャーからも「お願いして良かった」と感謝の言葉を頂くこともあり、それも大変励みになり、来年度はヒヤリハットから事故につながらないよう職員一同精進していきます。

成果と課題

この一年を振り返ると、梅寿荘デイセンターでは、ご利用者の皆さんが安心して、そして楽しく過ごしていただける時間づくりを大切にしながら、日々の活動に取り組んでまいりました。職員間で意見を出し合い、工夫を重ねる中で、少しずつではありますが、より良い支援の形を築くことができた一年であったと感じています。

特に、入浴の待ち時間を中心に「退屈を感じる」といったご利用者の声を受け、皆さんと一緒に手作りしたオリジナルゲームを取り入れたことは、大きな成果の一つでした。数字合わせをはじめ、国旗や漢字を使ったゲームなど、指先を使いながら自然と会話が生まれる活動を通して、笑顔で過ごされる場面が増え、ご利用者同士の交流も広がりました。ご利用者同士で一緒に取り組まれたり、集中して取り組まれる姿は、職員にとって何よりの励みとなっています。

梅寿荘デイセンター

生活相談員 中井 耕大

こうした取り組みやご利用者への日々の支援を実践できたのは、職員一人ひとりがご利用者との関わりを深めるため、前向きに取り組むことができたからだと感じています。一方で、十分に話し合う時間を確保できず、思いや考えを共有しきれなかった場面もありました。伝えつつも十分に共有できていなかったり、振り返ることで課題に気づくこともあり、質の高いコミュニケーションの難しさと大切さを改めて実感した一年でもありました。

2026年は、これまでの経験を活かし、より一層対話を大切にしながら、職員が協力し合える職場づくりを進めていきたいと考えています。ご利用者一人ひとりの声に寄り添い、ゆったりと心から楽しめる時間を提供できるよう、職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。

ケアハウス延寿では、お元気な方からサポートが必要な方まで様々な方が生活をされています。一人ひとりの個性やステージ、価値観や習慣など複雑に絡み合いながらも、持ちつ持たれつ助け合い頼り合いながらお過ごしになられています。

「サポートが必要な人」と「サポートする力がある人」が混在していますので、2025年は、「サポートする」という一方的な関係、年齢、能力などで区切るのではなく、一人ひとりに合わせた役割や居場所などを考えながら、ほんの少し背中をぽんっと押して差し上げるぐらいの関係性を築く事を大切にしています。

そしてこの秋、入居者の皆さんの協力のもと延寿

「宝延祭2025」では、初めて模擬店をケアハウスから出店することができました。大まかな計画や準備をお手伝いさせていただきだけで、皆さん自身が出来ることを一生懸命してくださり、沢山の方に喜んでいただけました。

毎日おしゃべりをしてご近所付き合いを楽しみたい人、挨拶程度の交流で静かに過ごしたい人、交流は苦手だけど人の気配を感じて安心感を得たい人など多様な人が集まるからこそそのトラブルやストレスや不安などは任せていただき、「お互い様の暮らし」を存分に楽しんでいただけるように、適度な距離感でこれからも支えさせていただきたいと思います。



宝延祭の作戦会議

門出に向かって!

梅寿荘デイセンター寿楽

生活相談員 矢野 健太郎

寿楽は、2026年3月31日をもって、生駒市有里町での営業を終了する事となりました。1999年に地域の公民館を改修して、デイセンターとして26年間事業を展開してきましたが、建物の老朽化により、現地での運営が困難となりました。

しかし、現在デイセンターを利用して頂いている、御利用者がおられます。御家族もケアマネージャーも地域の皆様も、たくさんの方が寿楽を認知して下さっています。生駒市の高齢者人口は今後も伸びていく、我々の果たすべき使命はまだまだあるのではないかと、という法人の決定のもと、門前町にある梅寿荘の建物内にデイセンター寿楽を誕生させることになりました。

建物は無くなってしまいますが、これまで寿楽で行ってきた取り組みや、経験、ノウハウは無くなり

ません!職員も一丸となり、開設準備にあたっています。有終の美となるよう、3月末までにやりたい事、既存施設でやり残しのないように、御利用者・職員と1日1日を大切に過ごしていきたいと思ひます。そして、新設のデイセンター寿楽としての門出に向かって、やってみたい事のリストアップも職員と進めています!御利用者・御家族・ケアマネージャー・寿楽に関わる多くの皆様に、丁寧に説明を行い、新設オープンに向けて進んで参りたいと思ひます。立地は変わってしまいますが、寿楽として、これまで培ってきたものを大切にしながら、新設という事でチャレンジ精神をもって、サービス提供に努める事で、御利用者の「来てよかった、寿楽で良かった」の継続を目指します!

「梅寿荘デイセンター寿楽」改修工事進捗状況

「梅寿荘デイセンター寿楽」の開設に向けては昨年の4月から何度も会議を重ね計画図を変更しながら、ようやく11年半ばから開始することができました。今急ピッチで工事が進んでおり、この3月末には完成となります。



デイホール

一新された「梅寿荘デイセンター寿楽」の全貌は次回のひめゆり通信にて紹介させていただきますので、どうぞ楽しみにお待ちください。

事務所 静養室 相談室





第3回 祥水園 塩崎理事長講話



第3回 施設訪問

社会福祉法人 祥水園

(奈良県五條市)

11月26日

祥水園は創立40年以上の歴史を誇る総合高齢者施設です。特別養護老人ホームをはじめグループホーム、ケアプランセンター、ヘルパーセンターを運営されています。また、福祉施設にとどまらず、カフェやスポーツジム、コミュニティラジオ局FM五條などの公益事業を数多く立ち上げ、地域に開かれた空間づくりにも取り組まれています。

午前中は塩崎理事長より、現在の祥水園ができるまでのお話を伺いました。祥水園を「自分はずっとここに居たい場所」にするために、福祉を地域に対して可視化し、開いていくことに取り組んでこられたことが印象に残りました。



主任研修第3回 祥水園 集合写真

また、職員の士気を高めるために「HOW TOではなくJUST DO ITでありたい」を合言葉に、他者から学ぶだけでなく自分から参画していく姿勢を大切にしていることが伝えられました。その後、法人で経営されているカフェで昼食をいただき、祥水園の施設を見学しました。カーテンや家具、お風呂に至るまで細やかな配慮が行き届き、利用者の皆さんもゆったりと穏やかに過ごしておられました。

他法人の施設を見ることは多くの刺激と学びがあり、今回の訪問を通して、地域の中で社会福祉法人が果たす役割について改めて考える貴重な機会となりました。

主任研修 を通して

3回にわたる主任研修を通して、「安全で働きやすい職場づくり」について、受講生の皆さんとともに考え、学ぶ時間となりました。研修に関わる中で、私自身にとっても多くの気づきのある研修となりました。本研修が主任として、また主任を目指す皆さんにとって、今後の実践や活躍につながるきっかけとなることを期待しています。

法人主任研修 に参加して

愛染寮 白井 絵里菜

法人主任研修に参加し、安全で働きやすい職場づくりを果たすために必要な知識とスキルについて学び、自分には何が出来るか考えを深めました。施設見学では他法人の様々な取り組みを見聞きし、たくさんの刺激をもらいました。これから自身がどのように成長していきたいか考えるととてもよい学びとなりました。

こども支援センターあすなろ 木村 史子

長年同じ業務に携わっていると凝り固まった思考になりがちですが、それを振り返り見直す機会となりました。また、他施設の同じような職責を担う方々とワークを共にする中で共有し合えることも多くあったと同時に、まだまだ自身がわかっていなかった部分があることも改めて認識しました。

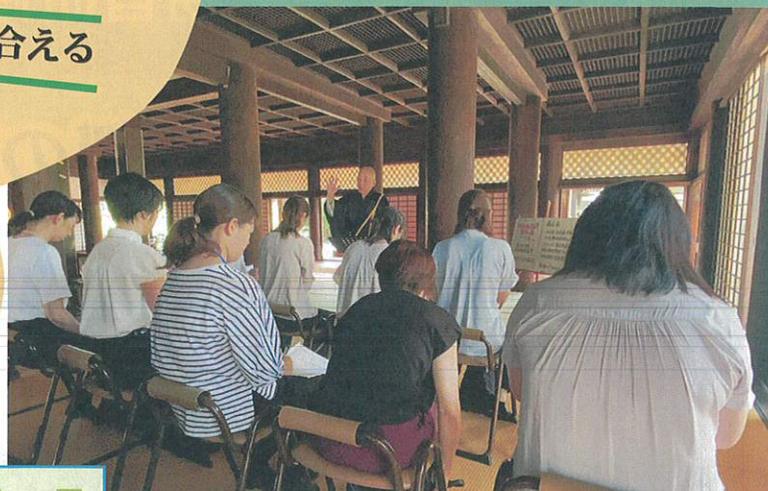
良い機会を研修で頂き有難かったです。

安全で 働きやすい 職場づくり

職員が安心して

意見を出し合える

令和7年度の法人主任研修会は、職員が安心して意見を出し合える“安全で働きやすい職場づくり”をテーマに、9月より3回にわたり開催され、11名が受講しました。



主任研修第1回 元興寺 理事長のお話

第1回

安全な 職場とは

9月12日

- ◎理事長講話・座禅体験（元興寺）
- ◎改めて人権を考える
廣岡幸夫センター長（こども支援センターあすなろ）
- ◎安全な会議“心理的安全性”とは
緒方優子臨床心理士（児童養護施設愛染寮）
- ◎情報交換会（リガーレ春日野）

まず、法人のもととなる元興寺において辻村理事長の講話から研修がスタートしました。



主任研修第1回 座禅体験

元興寺の歴史、法人の基本理念である「興法利生」について、改めてお話いただきました。その後、「数息観（すそくかん）」という息を数えることによって精神統一する座禅を体験しました。「姿勢をととのえ、呼吸をととのえることで、心をととのえることができる」という言葉が印象に残る、貴重な体験となりました。

午後からは、場所を極楽坊あすかこども園に移し、二つの研修を受講しました。この研修を通して、チームワークが効果を発揮するためには、一人ひとりが安心して発言し、行動できる「心理的安全性」の高い職場環境が不可欠であること、また、それを実践していくためには人権についての正しい知識を持つことが重要であることを学びました。

第2回

働きやすい 職場づくり

10月17日

- ◎働きやすい職場づくりのためのコミュニケーション
ソルナ・クリエイト株式会社取締役 大川郁子先生

第2回は、大川先生をお招きし、桃李館の研修室にて受講しました。

「他のスタッフ、利用者、子どもたちと対話を始めるきっかけを作る」という目的のもと、コミュニケーション、コーチングについて学びました。コミュニケーションはお互いに安心感を与え、勇気づけ合い、元気づけることを主とするものであり、「心理的安全性」には欠かせない要素であることを理解しました。一方、コーチングは相手が自ら考え、気づき、行動できるよう支援する関わりであり、「答えは話し手にある」という考え方が大切なポイントであることを学びました。

研修では、コーチングを取り入れた対話の基本姿勢を、受講生同士でペアになり実践を繰り返しました。助言するだけでなく、相手の本当の思いがどこにあるのか一緒に考えることの大切さを実感しました。



主任研修第2回

初実施

～二次考課の意義～



10月30日13:00～あくなみ苑の田中施設長に講師をお願いして、「人事考課実務者研修」を実施いたしました。人事考課は各施設において、職員の成長を促し、適材適所の配置を目的として行われる重要な制度です。

これまで年に1回程度、初めて人事考課に取り組む一次考課者向けに研修を実施してきました。しかしこの人事考課研修を一度受けると、以降は立場が上がって二次考課者、三次考課者となっても研修を受ける機会はありません。もちろん人事考課の基本は変わりませんので、一度受けておけばよいというところもあります。

ただ何年も繰り返し内部だけで考課をしていくと、どうしても独りよがりになったり考えが固定化したりしがちです。また一次考課者と二次考課者では役割が変わりますが、改めて考えないままになっていることも多いようでした。

そこで一度、二次考課者向けの研修を組んではどうかという意見があり、今回の「実務者研修」の実施となりました。

研修の流れとしては一次考課者向けと同じく、自身の認識のチェック、講義、模擬事例の検討、となります。この模擬事例では、仕事のペースは速いがミスが多い、仕事はマイペースだが正確に緻密にこなす、残業してでも期日に間に合わせる、人の輪よりも自分のタイミングを重視する、など多くの悩ましい点について検討がなされました。

この事例を通して、講師の田中施設長から、二次考課者は能力評価は行わないことや、何より一次考課者の評価結果を最大限に尊重しつつ、より中立性や公平性を担保するために全体を俯瞰する姿勢が重要であることが話されました。同時に自分の評価のクセを知ることの大切さも話されました。



受講者からは「初めて二次考課の意義を理解した」「いままでの自分の評価の仕方は違っていたかもしれない」といった感想も聞かれ、この研修は非常に有意義であったと感じました。



人事考課実務者研修を受けて

～チーム・組織論～

愛染寮 副主任児童指導員 玉田 周平

私が人事考課の研修を受けたのは十年ほど前のリーダー研修での一次考課者の研修だったと思います。人事考課自体はリーダー時代に一次考課者を、副主任になってから二次考課者を担当するようになり、久しぶりの人事考課に関する研修でした。今回の研修では田中施設長から二次考課者の役割について学ばせて頂きました。直接、普段の働きぶりを見ていない人の考課をすることは難しく、一次考課者の評価が適正であるのかをチェックする役割であると知りました。

グループワークでは四人グループを作り、同じ事例の登場人物の二人の人物について

評価をしました。まず個人で評価をして、その後四人で評価したが文章だけだとはいえ、これだけ評価が人によって違うものなのかと驚きました。その中で他の人の意見を聞くと自分の人事考課の癖や考え方、基準などが凝り固まっている部分があると感じました。

今後も人事考課をしていく上で、基本的な注意事項をしっかりと頭に入れ、一次考課者の評価をチェックできる二次考課者となるためにも、まずは職員との日頃からのコミュニケーションを大切に仕事に取り組みたいと思います。

令和7年度 法人永年勤続表彰

45年

極楽坊あすかこども園

副園長 老田 紀子

35年

極楽坊あすかこども園

主幹保育教諭 田中 明美

いこま乳児院

院長 辻村 万里子

30年

いこま乳児保育園

園長 喜多 由希子

いこま乳児保育園

保育士 城山 裕恵

いこまこども園

主幹保育教諭 辰己 章子

梅寿荘デイセンター

看護師 堂園 禮子

25年

愛染寮

主任児童指導員 菅尾 明史

いこま乳児院

看護師 関口 直見

いこま乳児院

保育士 吉田 京子

いこま乳児保育園

栄養士 中野 公美子

いこまこども園

保育教諭 仲井 史佳

極楽坊あすかこども園

保育教諭 山中 真智子

梅寿荘居宅介護支援センター

センター長 斉藤 洋子

特別養護老人ホームあくなみ苑

施設長 田中 将史

特別養護老人ホームあくなみ苑

介護職 岩田 一哉

20年

奈良県発達障害者支援センターでいあい

センター長 大西 和幸

いこま乳児院

事務員 加藤 歩美

はあとぽーと延寿

ヘルパー 奥野 美香

はあとぽーと延寿

ヘルパー 澤田 百合子

居宅介護支援センター延寿

介護支援専門員 中田 エミ子

特別養護老人ホーム延寿

介護職 西野 公章

特別養護老人ホームあくなみ苑

介護職 中島 真子

特別養護老人ホームあくなみ苑

介護職 馬渡 清美

梅寿荘地域包括支援センター

介護支援専門員 坂本 ひとみ

梅寿荘地域包括支援センター

看護師 長谷川 香織

全国レベル表彰受賞

厚生労働大臣表彰

いこまこども園

保育教諭 尾植 初美

全国社会福祉協議会会長表彰

こども支援センターあすなる

児童発達支援管理責任者 安西 貴志

特別養護老人ホームあくなみ苑

介護職 岩田 一哉

梅寿荘地域包括支援センター

介護支援専門員 諫山 直子

全国老人福祉施設協議会会長表彰

はあとぼーと延寿

ヘルパー 奥野 美香

はあとぼーと延寿

ヘルパー 澤田 百合子

居宅介護支援センター延寿

介護支援専門員 中田 エミ子

特別養護老人ホーム延寿

介護職 西野 公章

全国保育協議会会長表彰

極楽坊あすかこども園

保育教諭 山中 真智子

全国保育士会感謝状

あすかの保育園

保育士 原田 愛子

いこま乳児保育園

保育士 田村 佳奈子

デイセンター延寿

生活相談員 中島 淳

特別養護老人ホームあくなみ苑

介護職 中島 真子

特別養護老人ホームあくなみ苑

介護職 馬渡 清美

特別養護老人ホームあくなみ苑

管理栄養士 山下 真有美

令和7年度 法人役員会等報告 (令和7年10月～令和8年1月まで)

【第3回 理事会】 文書理事会 令和7年10月31日(金)

- 第1号議案 育児・介護休業規程について、関係の法令改正に伴い所要の改正を行う
- 第2号議案 奈良県の最低賃金が改正されたので、給与規程等の所要の改正を行う
- 第3号議案 理事会運営規定等の一部改正を行う
- 第4号議案 評議員選定等委員会運営規定の一部改正を行う
- 第5号議案 宝山寺児童遊園(第二種社会福祉事業 児童厚生施設)を廃止する

【第4回 理事会】 令和7年12月18日(木) 桃李館研修室

- 第1号議案 令和7年度上半期事業報告、今後の事業計画について
- 第2号議案 令和7年度第一次補正予算(案)の承認を求める件
- 第3号議案 理事長、業務執行理事の職務執行状況について報告
- 第4号議案 デイセンター寿楽の廃止に伴う梅寿荘改修工事の件
- 第5号議案 宝山寺児童遊園廃止に伴う定款変更並びに評議員会招集の件

【文書 評議員会】 令和7年12月25日(木)

- 第1号議案 宝山寺児童遊園廃止に伴う定款の該当事項を削除し、条項を整えること

【第5回 理事会】 文書理事会 令和8年1月29日(木)

- 第1号議案 奈良県発達障害者支援センターでいあーのセンター長に大西和幸氏(副センター長)を任命する (令和8年2月1日付)

宝山寺福祉事業団の広報さん

～お宝BOX～より

梅寿荘デイセンター 生活相談員 中井 耕大

最新動画
紹介

「宝山寺福祉事業団のファンを増やそう！」をスローガンに、今年度発足した広報PRチーム。YouTubeでの動画配信を中心に活動していますが、福祉専門職の私たちにとって動画の撮影・編集といった作業は非常に困難を極め、頭を抱えながらも「いつかバズりたい」という希望を胸に、精一杯励んでまいりました。その拙く粗削りではありますが、手作り感と温かみのある動画が、私たちのYouTubeチャンネルにアップされていますので、ぜひご覧いただき、チャンネル登録・高評価をお願いいたします。

LOOK!!

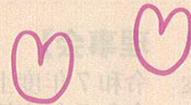


さて、これまでメンバーそれぞれが所属の施設・事業所からの動画配信が主でありましたが、この度の動画は、より広く法人の魅力が発信できればと考え、自施設を飛び出して、

days



特別養護老人ホーム梅寿荘の職員(岡本さん)の一日に密着させていただき、動画を作成しました。岡本さんは、勤続3年、梅寿荘でも期待の若手介護職員です。インタビューからも伝わる、優しさが滲み出る人柄で、ご利用者から信頼され、チームの職員と楽しく仕事をされています。出勤時から退勤まで、特養介護職員の一日の業務や、梅寿荘の雰囲気、介護職の魅力、そして岡本さんの魅力が伝わればと思いを込めた動画となっています。どうぞご覧ください。



◆編集後記



昨年春、梅寿荘の玄関横にコシアカツバメ(腰から下がオレンジ色で尾は深く切り込んだ燕尾型。とてもカッコ良いのです。)がつがいで一生涯命巢を作りそして子育てをして雛が無事に巣立ちました。その古巣にこの早い時期、今年もコシアカツバメが帰ってきました。

折角一生涯命に作った巣をすずめのつがいに危うく乗取られそうな野生の鳥たちの攻防をハラハラしながら見守っていましたが、今年もまたそんな攻防戦を見ることができるのでしょうか。困難を乗り越えて育雛して無事に巣立ってほしいと応援します。 <森本>